

全国都市緑化フェアの開催誘致に向けた基本構想検討状況について

1 全国都市緑化フェアの概要

- ・全国都市緑化フェアは、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、もって緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的とする国内最大級の花とみどりのイベント。
- ・昭和 58（1983）年度に第 1 回がされて以来、全国各地で巡回して開催され、概ね 100 万人以上の来場者を迎える規模での開催となっている。



■近年の開催概要（開催予定含む）

	第 35 回・山口 2018 年度 (H30)	第 36 回・信州 2019 年度 (R 元)	第 37 回・広島 2020 年度 (R2)	第 38 回・熊本 2021 年度 (R3)	第 39 回・北海道 2022 年度 (R4)
開催自治体	山口県 山口市	長野県・松本市・ 大町市・塩尻市・ 安曇野市	広島県・広島市 他 22 市町	熊本市	北海道 恵庭市
開催時期	秋 (52 日間) 9/14～11/4	春 (53 日間) 4/25～6/16	春～秋 (250 日間) メイン会場：3/19 ～5/24 (67 日間)	春 (65 日間) 3/19～5/22	6 月下旬から 1 ヶ月程度
入場者数	136 万人	70 万人	—	—	—



第 33 回横浜フェア

里山ガーデン（公園予定地）



みなとガーデン（街中）



第 35 回山口フェア

県営さらら博記念公園



第 36 回信州フェア

県営松本平広域公園

■全国都市緑化祭

- ・開催期間中の中心的行事として、全国都市緑化祭を開催。例年、皇室の御臨席を賜る。



全国都市緑化祭記念式典

出典：平成 30 年度全国都市緑化祭公式記録



記念植樹

出典：令和元年度全国都市緑化祭公式記録

2 仙台での開催実績

仙台市においては平成元（1983）年に、第7回全国都市緑化せんだいフェアを開催しており、令和5（2023）年に目指している開催で2回目となる。

‘89 グリーンフェアせんだい（第7回全国都市緑化せんだいフェア）

主催：仙台市・（財）都市緑化基金
 会場：[主会場]七北田公園
 [都心会場]勾当台公園
 [協賛会場]国営みちのく杜の湖畔公園
 会期：平成元（1983）年7月29日（土）
 ～10月16日（月） 80日間
 来場者数：1,385,742人
 開催テーマ：「都市と緑の調和をもとめて
 —いま、杜の都の新時代—」



開会式



主会場



全国都市緑化祭

出典：89 グリーンフェアせんだい公式記録

3 本市における開催に向けて

本市における全国都市緑化フェアの開催は、緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与するだけでなく、東日本大震災の復興から次なる時代に向けた新たなまちづくりを進める、「杜の都・仙台」を発信する絶好の機会であるとともに、交流人口の拡大や都市ブランドの向上、それに伴う経済波及効果など多くの効果が期待される。

杜の都の環境をつくる条例の制定50周年という節目の年にあたる令和5年度の開催に向け、今年度4月に基本構想懇談会を設置し、基本構想策定の検討作業を進めている。

■全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会

委員（14名）

座長	涌井 史郎	（東京都市大学 特別教授）
副座長	遠藤 進	（公益財団法人 仙台市公園緑地協会 専務理事）
	内海 一富	（一般社団法人 宮城県造園建設業協会 会長）
	工藤 良幸	（仙台市小学校長会（仙台市立南光台東小学校 校長））
	古積 昇	（一般社団法人 日本造園建設業協会 宮城県支部 支部長）
	今野 彩子	（株式会社 ユーメディア 取締役）
	佐藤 修	（仙台緑のボランティア団体連絡会 会長）
	佐藤 重喜	（宮城県花と緑普及促進協議会 幹事）
	佐藤 美嶺	（防災士／西公園プレーパークの会 理事）
	庄子 真岐	（石巻専修大学経営学部 教授）
	深松 努	（広瀬川1万人プロジェクト実行委員会 副委員長）
	本郷 敏章	（公益財団法人 仙台観光国際協会 専務理事）
	舩谷 成幸	（宮城県土木部河川課長）
	渡部 桂	（東北芸術工科大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 准教授）



第2回懇談会開催の様子
（R2.7.28）

●オブザーバー：国土交通省東北地方整備局建設部

※敬称略

4 検討スケジュール

令和2年度

4月 全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会設置

5月27日 第1回懇談会（開催意義・開催理念）

7月28日 第2回懇談会（基本構想骨子）

（以下、予定）

9月4日 第3回懇談会（基本構想中間案）

10月 パブリックコメント

11月 第4回懇談会（基本構想最終案）

12月 国土交通省との協議（大臣同意により開催決定）

5 仙台フェアの基本的事項

開催時期：令和5年4月下旬から6月中旬（今後精査）

メイン会場：青葉山公園追廻地区、西公園南側地区及びその間を流れる広瀬川の一帯。

令和4年度供用開始予定の（仮称）公園センターも活用。

その他会場：都心部の街路（定禅寺通・青葉通等）、東部地域に位置する高砂中央公園や海岸公園周辺での事業展開を検討。

■都心部周辺拡大図及びメイン会場



■メイン会場となる青葉山公園



（仮称）公園センターイメージ
充実したインフォメーション機能を備えた館内

6 仙台フェア開催の基本理念・基本方針

「杜の都・仙台」の多様な機能を持つみどりが形づくられてきた歴史やあゆみを辿り、その大切さを見つめなおすとともに、震災からの復興のその先にある「新たな杜の都」の創造に向けて、全国都市緑化仙台フェアを開催する。

仙台フェアの基本理念

百年先の、みどり豊かな杜の都を育むために

市民と事業者、そして未来を担う子どもたちとともに、“自然との調和ある環境の創造”を目指してきたまちづくりを振り返り、これまで培ってきたみどりの大切さや素晴らしさについて学び、気づく機会を創出し、担い手の育成はもとより、次世代へと続く「百年の杜」づくりへとつなげます。

みどりと親しむ仙台スタイルの発見、そして人の交流があふれるまちへ

日常生活や余暇にみどりを積極的に取り入れた仙台ならではの生活スタイルやみどりの活用のあり方など、新たな発見を目指すとともに、長い歴史とともに育まれてきた“みどり”が人や企業を呼び込む力となるよう、「杜の都・仙台」の魅力を国内外へ向けて発信し、新たな交流やさらなる都市活力を生み出します。

復興からその先へ、みどりを未来へつなげる

震災からの復興にあわせ進めてきた防災・減災の取り組みや、被災沿岸部のみどりの再生の取り組みを発信・継承するとともに、自然と調和した持続可能なまちづくりを進めるため、グリーンインフラの考えを取り入れ、ハード・ソフトの両面からみどりが持つ多様な機能に着目し、未来へ向けその可能性をさらに広げる機会とします。

仙台フェアの基本方針

1. 杜の都の“みどり”の可能性を発信するフェア

杜の都の歴史・復興の歩み、グリーンインフラ、
新たな生活様式でみどりが果たす役割や新たな可能性（働き方や子育て環境等）

2. 杜の都の“みどり”を体感するフェア

青葉山・広瀬川・定禅寺通りなどを活かした会場展開

3. 次世代の担い手を育てるフェア

子供も含めた市民、事業者の参画

4. みどりと花に囲まれた仙台スタイルを生み出すフェア

みどりや花が身近にある生活スタイル、仙台ならではの空間利用のあり方の創出

5. みどりを通じて人がつながり、まちが賑わうフェア

“訪れたい、暮らしたい、参加したい”を呼び起こす

人々の交流や消費を生み出し、地域経済の活性化へとつなげる